

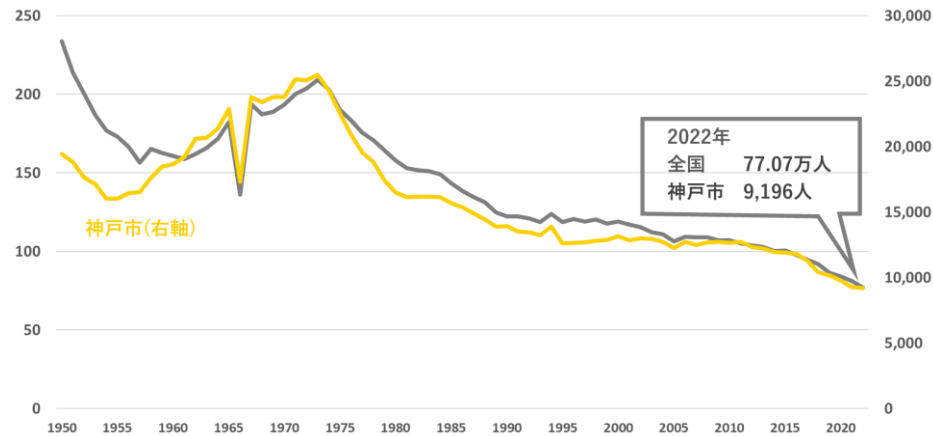
神戸の子ども居場所フォーラム ～子どもが外遊びできる協働の居場所づくり～

神戸市への提言（案）

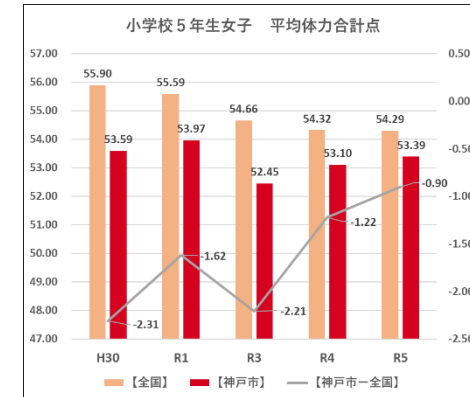
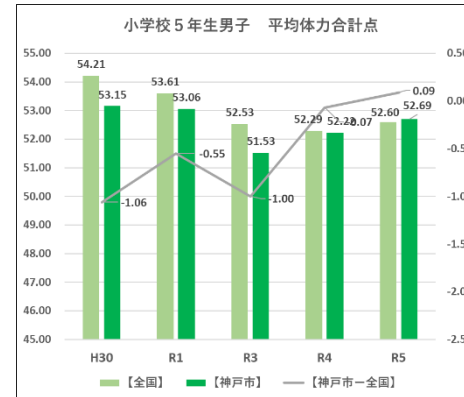


子どもを取り巻く環境と現状の課題

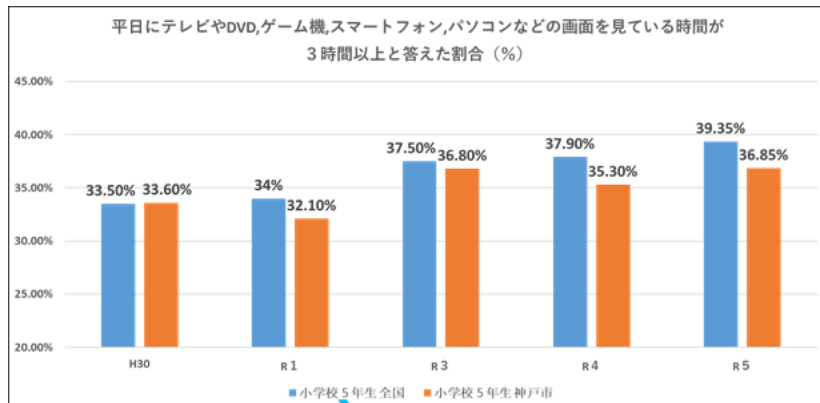
進む少子化「神戸市の出生数の推移」 厚生労働省人口動態統計、神戸市統計書より市作成



神戸市の子どもの体力 スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」より市作成



スクリーンタイム 近年の状況(小学校 5 年) スポーツ庁「全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」より市作成



第1回・第2回フォーラム内意見から

大人

- ・一緒に遊ばない。
- ・見守らない。
- ・遊び方を知らない。
- ・子どもを危険から遠ざける傾向が強い。

子ども

- ・体幹が鍛えられておらず、姿勢が崩れやすい。
- ・失敗を恐れてチャレンジしない。
- ・習い事で忙しく遊ぶ時間がない。

場所

- ・子どもが主体的に遊べる場所がない。
- ・公園は禁止事項が多い。
- ・校庭を放課後の遊び場としてもっと活用したい。

提言1.

子どもの日常に、面白くてワクワクする外遊びを

(1) 子どもたちにたっぷりと豊かな外遊びを

- ・子どものやってみたい！ワクワク・ドキドキ感を大切にする
- ・子どもたちが誰でも自由に遊ぶことができる

→これらの環境を子どもの日常につくり、神戸の風景にしましょう

(2) 子どもの外遊びの重要性を社会の常識にする

- ・子どもにとって「遊ぶ」ことは生きることそのもの
- ・子どもの声を聴くことが、子どもの居場所になる

→「こどもの意見聴取と政策への反映」を大切にした社会づくり



提言 2. 子どもの日常に外遊びの時間を

(1) 子どもが自由に遊ぶ時間をつくる

- ・子どもが主体的に遊べるようスケジュールを詰め込みすぎない
- ・なんにもせず、のんびりした時間を持つことは子どもにとって必要なこと

(2) 時間を気にせずたっぷりと遊べる時間を確保

- ・学校の時間割を工夫し、たっぷりと遊べる放課後時間を確保
- ・細切れではなく、まとまって遊べる時間を確保



提言 3.

子どもが主体的に遊べる空間を身近な場所に

(1) 子どもが歩いて行ける範囲内に外遊びの場所を確保

- ・徒歩圏内にある既存の空間（校庭、児童館、公園、寺社の境内等）をもっと遊びに活用する
特に、保護者にも安心感のある校庭はぜひ活用を
- ・「遊び場を作りたい！」を支援する行政や地域等の連携（例：複雑な公園管理形態の見える化）

(2) 子どもが主体的に遊べる場所をつくる

- ・子どもが「自分の居場所」だと思える、主体的に自由に遊べる場所を確保
- ・大人の押し付けではなく、子どもたちの主体的な意見を取り入れた「遊び場のルールづくり」
子どもの「やってみたい！」を実現するために、子どもの遊びを大切にした大人の見守りや、地域の寛容性が必要



提言 4.

遊びのなかに多様な人との関わりを

(1) 同学年・異学年の遊び仲間をつくる

- ・大人の関わりをできるだけ減らすことで、子どもは自ずと遊びを通じた交流で子ども社会を構築する 遊びは年齢、性別を超えた共通のコミュニケーションである
- ・子ども社会での集団遊びにより、人間関係に広がりや深まりが生まれ、異年齢でも一緒に遊べるルールが子どもたち自身のチカラで生まれていく

(2) 見守る大人・地域社会の協力

- ・子どもの遊びを見守る専門家（プレーリーダー、児童厚生員等）の養成と地域への配置
- ・地域、NPO、大学等と連携し、見守る大人の確保と子どもの外遊びに寛容な地域づくり
- ・「遊び場を作りたい！」を支援する体制、仕組みづくり(ノウハウの伝承、資金面での支援等)

